



「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内

TEL :043-227-8557



## 第2回 連続セミナー

### 「構造化～Structured TEACCHing から学ぶ～」

川崎医療福祉大学 臨床心理士・公認心理師

安倍 陽子 氏

7月の第2回連続セミナーでは、川崎医療福祉大学非常勤講師の安倍陽子先生をお招きして TEACCH の「構造化」についてお話をいただきました。ASD の人の学習スタイルの理解を疑似体験を交えながら学んだ後、「構造化」に関するよくある誤解に回答する形で、新たに「構造化」に関する知識を得ることができました。TEACCH を勉強してきた方やこれから勉強したいという方、どちらの方にも大変勉強になる講義となりました。会場で同僚の心理士の方々と多くの自立課題を展示していただき、参考になりました。

#### 「構造化」って？

○「構造化」とは、その子・人に合わせて、今何をするのか、次に何をするのか、予測可能なように、分かりやすくすること、そのための枠組みです。視覚の手がかり、視覚的システムを通して自立的に生活できるように支援し、自立的な生活が自己効力感、自尊心と自信を育てていくことにつながります。

#### 誤解①絵や写真カードや衝立を使うこと？

○これはよくある誤解の一つですが、「構造化」＝絵や写真カードや衝立を使うことではありません。情報の受け取り方は人によって異なり、そのとき必要ない情報が気になる人には、情報を制限するために衝立を使うことがあるかもしれません。又、その人の理解に合わせて、絵や写真カードを使用します。大事な事は、意味が理解出来るように、個別化して支援を検討していくことです。

**ASD の人がどのような学習スタイル(見方、感じ方、理解の仕方)をしているのか、他、個別の評価を適切に行い、その人に合った支援方法を考え、実行していくことが重要です。**

ASD の人には、エラーレス・ラーニングが大事です。後で修正していくことが難しいからですが、将来変更しなくてよいものは、小さいうちから正しい形で学べるとよいですね。

#### 誤解②地域は構造化されていないから・・・

○これもよく聞かれますが、本当にそうでしょうか？地域は意外に「構造化」されています。駅に行くと、乗り換えの案内は乗る電車ごとに色分けされて、ルートが示されているなど、初めての人が利用しても分かりやすいようになっています。日々、進化してきていますよね。

ASD の人にとっての「構造化」は、視力が弱い人にとっての「眼鏡」のようなものです。視力の弱い人が「眼鏡」を外すと普通の生活ができるでしょうか？ASD の人にとって、外界を理解する手掛かりとして「構造化」が必要です。

TEACCH のコアバリューの一つは、「strengths」個々の強みを活かすことですが、構造化する中にその強みを活かすことは、とても大切な視点です。

#### 誤解③指導・支援って「構造化」がゴール？TEACCH は教えない？

○指導や支援のゴールは「構造化」することではありません。ここで大切なのは、「構造化」を通して何を (WHAT) 教えるか＝カリキュラムであり、「構造化」は、それをどのように (HOW) 教えるか＝枠組みなのです。その「Structured TEACCHing」(教育方略)の要素は、①スケジュール(時間)：どこへ行くのか？ ②ワークシステム(活動)：何をどれくらいするのか？いつ終わるのか？次に何が起こるのか？ ③マテリアルストラクチャー(やり方)：教材などの構造化、視覚的支援 ④物理的整理統合(場所／空間)：ここで何が起こるのか？で、具体的にそれらの要素を TEACCH が教えてくれています。

(カリキュラムの指導領域の構造化の例については、講演の中で写真で紹介していただきました。)

#### 誤解④「スケジュール」を示してもうまくいかない・・・

- まずは「スケジュール」の示し方が、その人に合ったものであるのか、そして、同時にそのスケジュールに示された活動が、その人に合っているのか否かの双方を検討する必要があります。スケジュールは、どんな活動を行うのか(どこに行くのか)、その流れはどうなっているか(次に何が起こるかを示すことで、不安を軽減する)を伝えるものです。うまくいかない場合は、上記を検討した上で、「再構造化」を行っていく必要があります。スケジュールは、固定するものではなく、変化を伝え、柔軟性を養うものです。将来、生活する中で、自分のことは自分で確認するという姿勢につながっていくものです。
- スケジュールは、個別の評価によって、実物・シンボル／絵(写真)カード(+文字)／文字と個別化されたものを使用します。スケジュールの長さは、次の活動のみ／部分デイ(いくつか)／半日／一日の流れなどがあります。スケジュールは分かりやすく、自立的に使えることが大切です。時間を知るために、時計／タイマー／タイムタイマー／カレンダーなどを使用します。
- 切り替えが難しい人には、「終わり」をまず教えていきましょう。終了箱の利用／かごの利用(刺激の整理)／棚(元の場所)に戻す＝お片付け／合図、歌／タイマー、時計など理解度に合わせて活用していきましょう。

#### 誤解⑤課題って、かごや棚を使うこと？

- その人によって分かりやすく、見通しがもちやすいように、課題の組織化も個別の評価から考えていくことが大切です。必ずしもかごの中に教材の貼り付けが必要な人ばかりではありません。かごから教材を出して行う人も多くいます。又、プリント学習などをする人もいます。ASD の人は、実行機能の弱さから、物事の段取り・時間管理・整理整頓等が苦手な人が多いので、かごや棚を使って、上から下へ、左から右へという流れで取り組むようにすると、分かりやすいですが、そのやり方は個別に様々です。ASD の人が課題に取り組む上で、重要な要素として、課題を嫌いにならないように心掛けることが挙げられます。(これに関しては、課題の内容そのものがその人に合っているのかの評価も大切です。)

#### 誤解⑥構造化は、いつなくすのかな？

- 視力が弱い人に、眼鏡はいつ取りますか？と聞いていることと同じで、なくすものではないです。構造化は環境の意味と見通しを伝え、それにより ASD の人は安心して取り組みます。コアバリューの「Continuous Lifelong Learning」は、私たち誰もが一生涯学び続けることが大事であるように、ASD の人も「構造化」された環境の中で、生涯に渡って多くのことを学んでいくことでしょう。充実した生活のためにも「構造化」は必要です。

#### まとめ

- ◎ASDを理解し、支援は、どのような学習の仕方をしているのか(見方、感じ方、理解の仕方)やそれぞれの強み「strengths」を含めた個別の「評価」から始める。
- ◎その評価を基に、個別的に「構造化」「再構造化」を考えていく。
- ◎構造化の度合いを減らすことよりも、安心や生活の豊かさにつなげ、自己効力感、自己肯定感(自立と自信)がもてることが大切であり、新しく学ぶためにも必要。

#### 千葉県 TEACCH プログラム研究会第4回連続セミナー紹介

日時：令和7年10月26日(日) 14:00～16:30(13:30受付)

内容：「ASDの子育てを振り返って」

講師：保護者

会場：千葉県教育会館203会議室(千葉市中央区中央4-13-10)

※なお、第4回セミナーは、講師の方の都合により、オンデマンド配信はありません。  
ご容赦ください。

#### 【編集後記】

今回の安倍先生の講義はとても参考になりました。なかなか「構造化」することを頑張っても、「将来の施設は構造化されていないから、いらないよ。」といった意見を聞くことができました。今後は自信をもって、「今担当している子ども達にとってはずっと必要なことである。」と伝えられるようにしていきたいと思います。学校内では、若い先生方も増えているので、「構造化」の良さをどんどん伝えていきたいと思っています。(三国)